

1 提出された意見等及び市の考え方

通番	ページ数	項目	意見の概要	市の考え方
1	全体		概要版を作成、市内公共施設に配布してはどうか。	基本方針のページ数は30ページ程度に抑えているため、概要版は作成しませんが、公共施設に設置して閲覧できるようにします。
2	全体		巻頭に市長挨拶を掲載してはどうか。	冒頭に「基本方針の策定にあたって」を掲載することで、市としてのシティプロモーションに取り組む姿勢を示しています。
3	全体		シティプロモーションは、地域を持続的に発展させるため、地域の魅力を内外に訴求し、地域資源を最大限活用しようとする取組みであり、その推進にあたっては、地域資源の発掘・把握や地域ブランドの醸成などが求められると理解しますが、この基本方針は、全体的に情報発信に偏った内容であり、地域資源の魅力を認識し、その魅力を地域ブランドに醸成するという過程が十分に言及されておらず、この点での見直しを望みます。	基本方向は3つの鍵から成り立っており、「情報発信」は「3の鍵」となります。地域資源の発掘・把握については「2の鍵」、地域ブランドの醸成については「1の鍵」で示しています。
4	全体		「様々な」と「さまざまな」、「誇りや愛着」と「愛着・誇り」の標記及び順番を整理してはどうか。	「様々な」に整理します。また、総合計画の標記のとおり、「誇りと愛着」に統一します。
5	全体		「価値」という言葉が出てくるが、例えばP1の”一緒に行動し、価値を共創できる”については、”一緒に行動し、魅力を共創できる”の方がわかりやすいのではないかと。全体を通して、「魅力」と「価値」の言葉の整理ができていない。基本的には「魅力」という言葉に統一して整理してはどうか。	「魅力」と「価値」の言葉を整理し、「魅力」に統一して修正します。 修正箇所は以下のとおり。 ・策定にあたって：下から3行目 ・P1：14行目、15行目、下から2行目 ・P18：1行目
6	全体		「取り組みが展開～」、「取り組みを進め～」、「取り組み例」の「取り組み・取組み」の表記をどちらかに統一した方が良いと思います。	「取り組み」に統一します。
7	目次		“2. ターゲット”、“3. 基本方向”、“4. シティプロモーションの推進に向けて”、それぞれが内容文の題目には、副題があり、目次にも同様の併記が望まれます。	目次にも副題を付けるように修正します。
8	冒頭		「茨木市シティプロモーション基本方針の策定にあたって」1段落目、2段落目、3段落目全般で「、」が多いように思います。整理されてはどうでしょうか。また、3段落目は一文が長すぎて意味がわかりづらいです。「～求められますが、それとともに～」でなく、「～求められます。」で一度区切るなど読みやすいようにされてはどうでしょうか。	読みやすいように整理します。
9	冒頭		2行目「予想されます」を「想定されています」に修正してはどうか。	「想定」は仮にそういう設定をした場合、という前提条件のことになりますが、ここでは、単にそのような状況が考えられるということを示しているだけなので、原案のままとします。
10	冒頭ほか		市民参加・協働のまちづくりにおいて、市民目線では、政策や計画の「みえる化」・「わかる化」・「いやす化」が求められますが、この基本方針に関し、「いやす化」は今後に期待するとして、別記の個別所見のほか、なぜ今、シティプロモーションが必要なのかをはじめ、全体的に「みえる化」と「わかる化」が十分とはいえず、以下のとおり、分かりやすく編集に一工夫されることを提言します。 1-1. シティプロモーションの必要性 1-2. 「茨木市シティプロモーション基本方針」の位置づけ 1-3. 本市シティプロモーションの考え方 1-4. シティプロモーションの目的	1-1. シティプロモーションの必要性は、「策定にあたって」で記載しています。 1-2. 「茨木市シティプロモーション基本方針」の位置づけは、P3「第5次茨木市総合計画における位置づけ」で記載しています。 1-3. 本市シティプロモーションの考え方は、P1の「シティプロモーション」で記載しています。 1-4. シティプロモーションの目的は、P1「基本方針の目的等」で記載しています。 以上より、原案のままとします。
11	1	基本方針の目的等	「P21以降の」は要らないと思います。	「P21以降の」を削除します。
12	1	シティプロモーション	冒頭から“近年、「シティプロモーション」に取り組む自治体が増えています。”とありますが、先進自治体では、北九州市で平成18年度設置のにぎわいづくり企画課から平成20年度にシティプロモーション部への再編を先駆に、シティプロモーション課やシティプロモーション推進本部など、いくつかの名は体を表す取組みが数年前から目に付き、具体的推進計画も富山市が平成21年に策定しており、近隣で箕面市が平成21年に「箕面営業課」(現在は箕面営業室)を新設してシティセールスプロモーション強化の取組みや高槻市が営業広報室の担当で平成24年から第一次営業戦略(今年度から第二次営業戦略)によるプロモーション活動を展開なども見られ、10年ほど前からシティプロモーション活動に取り組んでおり、「近年」とは言えないのではないのでしょうか。	ご指摘のとおり、先進的な自治体は10年以上前からシティプロモーションやシティセールスに取り組んでいます。日本全体が人口減少社会となり、地方創生の必要性が指摘されるようになったここ数年もシティプロモーションに取り組む自治体が増えていることから、「近年」と表現しています。
13	1	シティプロモーション	“本方針では”とありますが、その前に“本方針”に当たる“茨木市シティプロモーション基本方針”の記述がありません。また、略するとしても“本基本方針”が妥当です。	茨木市シティプロモーション基本方針(以下、基本方針という。)に修正します。
14	1	基本方針の目的等ほか	“…、まちの魅力を市内外に効果的・戦略的に発信する”に関し、“効果的・戦略的”は“総合的・戦略的”が適切だと思います。	さまざまな方策を「総合的に」発信することも重要ですが、そのことも含め、方法の質、量、組合せ、タイミングなどについて、どのように発信することが「効果的」であるかが重要であるため、原案のままとします。
15	1	基本方針の目的等	4行目以下を次のように修正を提言します。 “このような状況を踏まえるなか、本基本方針は、これら魅力を伝えたいターゲット(情報発信の対象者)に“気づいてもらう”とともに、市、市民、事業者・団体など関係者が役割分担して効果的な発信をすることにより、“新しい価値”を共創する”ように取り組む方向性を示すものです。”	「ターゲット」は「情報発信の対象」だけでなく、「一緒に取り組む対象」としても考えています。また、役割分担をしながらも、連携あるいは一緒になって取り組むことも重要であるため、原案のままとします。
16	1	基本方針の目的等	目的に、“地域の持続的な発展”の追記を望みます。	目的に、「ずっと元気にすること」及び「中長期的な経済効果にもつながる」ことを記載しており、これらは「地域の持続的な発展」の意味を含んでいるため原案のままとします。
17	2	イメージ図	イメージ図は、青系色帯に記載のフレーズを“茨木の良さを認識・再認識”から“茨木のよさを認識・再確認”に修正すること。	初めて認識するだけでなく、改めて違う視点などから認識することの意味も含めて「再認識」という用語を使用しています。
18	2	シティプロモーションで期待される効果	それぞれの段落が、半角分しか空いていない。全角に修正してはどうか。	全角空けるように修正します。
19	2	シティプロモーションで期待される効果	「賑わい」と「にぎわい」、「芸術や文化」と「文化や芸術」の順番等を整理してはどうか。	「賑わい」、「文化芸術」に統一します。
20	3	「第5次茨木市総合計画」における位置づけ	「第5次総合計画」を「第5次茨木市総合計画」に修正してはどうか。	「第5次茨木市総合計画」に修正します。

1 提出された意見等及び市の考え方

通番	ページ数	項目	意見の概要	市の考え方
21	4	明日への扉を開く”Ibara-key”	1行目「茨木で初めて策定する～」を「茨木市で初めて策定する～」に修正してはどうか。	「茨木市で初めて策定する～」に修正します。
22	4	明日への扉を開く”Ibara-key”	2段落目「現在の魅力」を「現在」に修正してはどうか。	「現在ある魅力」と「未来につながる魅力」を示したいので、原案のままとします。
23	4	明日への扉を開く”Ibara-key”	「Ibara-key」の頭文字は、大文字(4ページ)なのか小文字(表紙)なのか整理した方が良いのではないのでしょうか。	表紙のロゴに合わせて小文字に修正します。
24	4	明日への扉を開く”Ibara-key”	「わくわく感」「ワクワク感」を平仮名かカタカナのどちらかに統一した方が良いと思います。	「ワクワク感」に統一します。
25	5	ターゲット	※の部分について、ここだけが『「市民」と「市外』』となっている。意図するところは理解できるが、他の部分と同様に『「市内」と「市外』』のほうがいいのではないのでしょうか。	「市内」に修正します。
26	5	ターゲット① 市内	“全市民”を“市内の全住民・事業者”に修正することが適切です。	本文中に、市内の事業者・団体を含む旨を記載します。
27	5	ターゲット① 市内	二重枠内の“重点対象”を“重点ターゲット”に修正することが適切です。	「重点ターゲット」に修正します。
28	6	ターゲット② 市外	ターゲット②市外 近隣都市の住民について、「主にはショッピング～」と「茨木で消費したり～」の内容が被っているように感じます。文が長くわかりづらいため、再考されてはどうでしょうか。	「茨木で消費したり」を削除します。
29	6	ターゲット② 市外	“近隣都市の住民”を“市外の住民”とし、記述の中で※印での内容も合わせて近隣都市の住民を重点ターゲットとする旨を追記すること。	市外のターゲットについては、「効果や戦略」の観点から広域に展開するのではなく、訪れたり、市のイベント等に参加しやすい「近隣都市」に設定しています。
30	6	ターゲット② 市外	イメージ図に関し、“興味”を“興味・関心”に、“ファン”を“ファン・応援団”に、それぞれ修正する。	「興味」は、「ある対象に対する特別の関心」などの意味があるため、ここでは「興味」のみを使用しています。また、イメージ図に記載のとおり、ファンには、「訪れる、使う、応援する」の意味が込められていることから、原案のままとします。
31	6	ターゲット② 市外	“茨木に住んでみたい”に“茨木をまた訪れたい”の来訪リピーターを併記することが望まれます。	「茨木に住んでみたい」は、下部の「※」に記載しているのとおり、シティプロモーションの副次的な効果として考えています。「茨木を訪れる」「茨木を使う」「茨木を応援する」には、それぞれリピーターの意味も含まれます。
32	7	3. 基本方向～どのような鍵で扉を開くのか～	終わり2行に記述の関係者がそれぞれ主体的に協力・連携しながら推進することは理解しますが、それぞれの責務・役割があってしかるべきであり、この点に関する記述が求められます。	責務・役割については、P18「4. シティプロモーションの推進に向けて」に記載しています。
33	7～17	3. 基本方向～どのような鍵で扉を開くのか～	目次も含め、6. 茨木の魅力と同様に、“3-1. 1の鍵：まちのイメージ形成”と、全体で分かりやすい表記が望まれます。	3章「基本方向」は、章の中で3つの鍵を紹介しており、6章のように節に分けることは異なります。ご指摘をいただきましたことから、こうした区別がわかるように、見出しのデザイン等を工夫します。
34	7～17	3. 基本方向～どのような鍵で扉を開くのか～	全体的に、基本方向を理解するにせよ、実践にあたり、情報発信の基地・拠点がまったく見えません。本市の場合、近隣都市と比較し、発信メディアや観光案内所など、必要なハードの環境整備にハンディを負っており、この点に関する基本方向の明記が求められます。	P18「4. シティプロモーションの推進に向けて」に記載しておりますが、実践にあたっては「できることから、それぞれが発信すること」が重要と考えております。
35	8	1の鍵 まちのイメージ形成	1の鍵 まちのイメージ形成 5行目の「市民には、」は「市民の」の方が良いのではないのでしょうか。または、主語がわかりづらくなっているの で、文を再考されてはどうでしょうか。	「市民にとっては」、「市外居住者にとっては」とわかりやすく修正します。
36	8	1の鍵 まちのイメージ形成	7行目の、その「まちを訪れたい」の「その」は削除して良いのではないかと。	「その」を削除します。
37	8	1の鍵 まちのイメージ形成	下から3行目について、「関係者」を「市、市民、事業者・団体など関係者」と修正した方が良いのではないかと。	同じ文章の最後に「市民、事業者・団体」という文言があるため、原案のままとします。
38	10	2の鍵 まち魅力の発掘・創造	8行目、11行目の太文字の部分について、他のページは1文字目から始まるのに、ここだけ何文字か空いたところから始まっている。	他と同様に修正します。
39	10	2の鍵 まち魅力の発掘・創造	2段落目「魅力のありのままを」は「魅力をありのまま」へ修正した方が良いのではないかと。	ご指摘を踏まえ、「魅力をありのまま発信するだけでなく」に修正します。
40	10	2の鍵 まち魅力の発掘・創造	9行目に「情報収集」とあるが、情報収集をするだけで「光が当たる」のか疑問である。	ご指摘のとおり、情報収集をするだけで「光が当たる」わけではありませんが、「光が当たる」ように、まずはきめ細やかな情報収集が重要と考えているため、原案のままとします。
41	10	2の鍵 まち魅力の発掘・創造	11行目の「関わりを持った人との～」を「関わりを持った人たちとの～」へ修正してはどうか。	「関わりを持った人たちとの～」に修正します。
42	10	2の鍵 まち魅力の発掘・創造	14行目、「新たに”再発見」とあるが、再発見なら「新たに」はおかしいのではないかと。	「新たに」は削除します。
43	10、11	2の鍵 まち魅力の発掘・創造	「異なる魅力の組み合わせにより」を「異なる魅力を組み合わせることにより」へ修正してはどうか。	「異なる魅力を組み合わせることにより」に修正します。
44	13	アンケート結果の引用	3行目「参加しないが参加できていない」⇒「参加したいが参加できていない」の誤りではないのでしょうか。	「参加したいが参加できていない」に修正します。
45	13	アンケート結果の引用	2段落目の「参加状況別にみたところ」を「参加状況をみたところ」に修正してはどうか。	「参加している」「参加していない」の分類によって比較しているため、原案のままとします。
46	13	アンケート結果の引用	8行目 学生の方の「の方」は不要。他のページにも「の方」があるが不要では。	「参加している学生の方が参加していない学生に比べて」という意味合いです。わかりやすく「ほう」と平仮名に修正します。また、P1下から6行目、P33下から9行目は、「方(かた)」があると丁寧なため、原案のままとします。
47	13	アンケート結果の引用	5行目の「学業やアルバイトが忙しいという回答が多いですが」という一文は特に必要が無いと思われるので、削除する方が良いのではないかと。	5行目の「学業やアルバイトが忙しいという回答が多いですが」という一文は削除します。
48	14	3の鍵 情報発信の強化	2行目、下から5行目等、発信するのは「茨木の魅力」、「茨木魅力を伝える情報」、どちらなのか？「発信」ではなく、「(茨木)魅力を発信」、あるいは「情報を発信」とした方が良いのではないかと。	「魅力」を発信するものと考えており、そのように文言を修正します。
49	14	3の鍵 情報発信の強化	(真ん中四角部分について)本文は「媒体の選択」について言及しているが、当該箇所は「方法の選択」についてである。	本文9行目において、「情報媒体や提供方法を適切に選択するなど」に修正します。
50	14	複数の情報媒体による発信	下から9行目について、「対面による口コミ」は「メディア」にあたるのか。	「インターネットをはじめ、紙媒体や放送媒体など複数のメディアや対面による口コミを活用し」に修正します。

1 提出された意見等及び市の考え方

通番	ページ数	項目	意見の概要	市の考え方
51	14	複数の情報媒体による発信	下から6行目について、「HP、FB」について、略す必要があるのか。必要が無ければ、分かりやすく「ホームページ、フェイスブック」に修正した方が良いのではないかな。	省略せず、分かりやく「ホームページ、フェイスブック」に修正します。
52	14	複数の情報媒体による発信	下から4行目について、「機会」は「媒体」と置き換えた方がわかりやすいのではないかな。	「媒体」に修正します。
53	14	複数の情報媒体による発信	「情報発信が広く認知されるように、それら情報～」がという表現がわかりにくい。「それら」という文言を削除してはどうか。	「それら」を削除します。
54	14ほか	3の鍵 情報発信の強化	「PR」と「アピール」の文言を整理した方が良いのではないかな。	PRは広報する、アピールは訴えるという意味があるので、文章の中でその都度判断します。 ・P9上から2行目は「アピール」のままとします。 ・P14上から7行目は「広く」という文言を削除します。 ・P14上から8行目は「アピール」に修正します。 ・P14下から6行目は「PR誌」のままとします。 ・P16取り組み例1つ目は「PR」のままとします。
55	15	パブリシティの強化	取り組み例にある「マスコミ関係の人材とのネットワーク」について、「マスメディア関係者との人的ネットワーク」としてはどうか。	取り組み例を「マスメディア関係者との人的ネットワーク」に修正します。
56	16	連携による発信	5行目、「都市イメージをはじめ、市、民間事業者や団体、大学等、それぞれのイメージの向上につながる」とあるが、都市イメージとそれぞれのイメージ、どちらかと言うと、それぞれのイメージ向上をまず先に考えるのではないかな。	どちらも大切なものと考えておりますが、市のシティプロモーションとしては、都市イメージの向上を先に取り上げるべきと考え、原案のままとします。
57	16	連携による発信	9行目の「露出」という言葉について。これはあまり良いイメージがないような気がしますので他の文言に修正してはどうか。	「露出」を「PR」に修正します。
58	16	連携による発信	最後の3行にの、「あらゆる機会をとらえて、(中略)、触れることのできる機会を充実します。」について、「機会をとらえて～機会を充実」といった表現に違和感があるため、わかりやすく表現を改めてはどうか。	「あらゆる機会をとらえて」を削除します。
59	18	4. シティプロモーションの推進に向けて～誰が扉を開けるのか～	1行目の、「知る人」とは「興味を持つ人」のことでしょうか？	P5、6の内容を踏まえ、「想いや興味を持つ人」に修正します。
60	18	4. シティプロモーションの推進に向けて～誰が扉を開けるのか～	重視する3つの項目について、1つ目と2つ目の意味はほとんど同じではないかな。	1つ目は、「無理のない範囲から始めましょう」ということを示しており、2つ目は、「関わる人、発信することを増やしましょう」ということを示していることから、原案のままとします。
61	18	4. シティプロモーションの推進に向けて～誰が扉を開けるのか～	4行目は「市外の人」となっているが、図では「市外の住民」となっている。表現を揃える方が良いのではないかな。	本文を「市外の住民」に修正します。 また、その他の箇所についても「市外の人」を「市外の住民」に修正します。
62	18	4. シティプロモーションの推進に向けて～誰が扉を開けるのか～	図の中の「SNS」という文言について、用語集に追加をした方がよいのではないかな。	SNSも脚注を付けることとします。
63	18	4. シティプロモーションの推進に向けて～誰が扉を開けるのか～	イメージ図を見ると、市・職員を挟んで片方が市民やその他市内関係者で他方が市外の住民となっていますが、ここは三者がそれぞれに情報の送り手と受け手になる関係性にあるべきと考えます。	イメージ図では、市・職員、市民、事業者・団体が同じ四角の中に入っていることにより、「一丸となって取り組む」ことを表しています。また、市外の住民に対しても、矢印により、双方向の関係性を表現しています。
64	19	目標指標	“目標”と“指標”の類語が併記された意味不明の題目であり、“成果(or評価)指標と数値目標”と分かりやすい表記にしてはどうか。	「成果指標と目標値」に修正します。
65	19	目標指標	魅力発信の目標値は、市が行うことなので40%よりもっと下げる方がよいのではないかな。	ご指摘のとおり、市では、魅力発信が「できていない」という回答を、今後10年間のシティプロモーションの取り組みにより減らしたいと考えているため、他の指標と同程度の5%程度を改善目標とし、38%に修正します。
66	19ほか		大見出し5、6でIbara-keyが消えてしまっているのが残念。最後まで使う工夫をしてほしい。	大見出し5は「成果指標と目標値」であることから、副題は「～たくさんの心の扉を広げよう～」とし、大見出し6の副題は「～心の扉の向こうに広がる魅力～」とします。
67	21	6. 茨木の魅力	1行目～6行目の文章をもう少しスッキリさせて、わかりやすくした方が良いのではないかな。	ご指摘を踏まえ、わかりやすく表現を整理します。
68	21	6. 茨木の魅力	記述の4行目で“「行政活動」による魅力”とありますが、地方自治の本旨を成す団体自治は行政活動と議会活動との両輪によることを踏まえ、ここは“市政による魅力”と修正が妥当です。また、下に掲載の図も同様に修正する。	ご指摘を踏まえ、「自治体活動」に修正します。
69	21	6. 茨木の魅力	下に掲載の図にある、それぞれでの“…による魅力”は記載不要です。	本文の表現修正と合わせて、図内の「…による魅力」を削除します。
70	22	6-1. 茨木を代表する魅力	1行目の「総合計画で市民ワークショップなどによりまとめられた」を「第5次茨木市総合計画でまとめられた」に修正してはどうか。	経過を踏まえるため、「第5次茨木市総合計画の策定にあたって、市民ワークショップの意見などを参考にまとめた」に修正します。
71	22	6-1. 茨木を代表する魅力	冒頭8行の終わりに“主に市の若手職員が整理した茨木らしさを表す代表的なものです。”とありますが、この記述がどうして必要なのでしょう。ここは“なお、…、統計データなどに基づいて整理した茨木らしさを表す代表的なものです。”で十分です。	「茨木を代表する魅力」は、各種アンケートや統計データなどに基づき、庁内の若手職員によるプロジェクトチームが整理しました。こうした検討の経緯がわかるよう、このように表現しています。
72	23	大阪・京都の「都市型エンターテインメント」を満喫	②交通環境が充実した便利なまちとして、道路網の利便性も魅力ではないかな。名神、近畿、新名神(予定)および国道171、中央環状線、大阪高槻京都線など広域道路が東西、南に走っているのも大きな魅力とします。	ご指摘の魅力もありますが、ここでは網羅的に交通の利便性を示すのではなく、交通網の良さが大阪や京都に行きやすく、大都市のエンターテインメントを楽しむやすいこと、また全国各地、世界にも行きやすいことを主眼に魅力を表しているため、原案のままとします。なお、道路網の利便性に着目した魅力としては、「④働き・学び・住み、多様な機能をもつまち」に関連して、「大阪の一大流通拠点」に記載しています。
73	24	どんな本もきつと見つかる「充実の図書館」	「北摂比較では、人口当たり図書館貸出数 1位、貸出図書点数 1位 茨木市資料」について、下線部分の意味がわかりづらいので、「図書貸出数、市民一人当たりの図書貸出数ともに1位」といった表現のほうが良いのではないかな。	「北摂比較では、図書やCDなどの貸出点数、市民一人当たりの貸出点数ともに1位」に修正します。
74	25	大阪の一大流通拠点「流通業務団地」	市域南部の魅力発信として、「府中央卸売市場」をアピールに用いてはどうか。	P25「大阪の一大流通拠点「流通業務団地」」に、大阪府中央卸売市場を魅力の一つとして記載しています。

1 提出された意見等及び市の考え方

通番	ページ数	項目	意見の概要	市の考え方
75	26	世界に誇る「キリシタン遺物」や「川端康成」	他自治体に優る「古墳」や茨木ゆかりの武将「片桐且元」について記述してほしい。	ここでは網羅的に歴史・文化の魅力を示すのではなく、アンケート等によって上位に挙げた資源をもとに「⑤歴史・文化が息づくまち」という魅力を表しているため、原案のままとします。
76	26	世界に誇る「キリシタン遺物」や「川端康成」	⑤歴史・文化が息づくまちとして、市内の寺社もどうか。総持寺とか茨木神社やその行事など。	ここでは網羅的に歴史・文化の魅力を示すのではなく、アンケート等によって上位に挙げた資源をもとに「⑤歴史・文化が息づくまち」という魅力を表しているため、原案のままとします。
77	26	集積し、特色ある「6つの大学と高校」	集積し、特色ある「6つの大学と高校」の見出しは、「特色ある「6つの大学と11の高校」が集積」に修正した方が良いのでは。	他のご指摘も踏まえ、「特色ある「6大学と11高校」が集積」に修正します。
78	26	集積し、特色ある「6つの大学と高校」	⑥学術研究機関などの資源が充実したまちとして、「集積し、特色ある「6つの大学と高校」」が記載されていますが、内容的に④働き・学び・住み、多様な機能をもつまちに相当すると思われ、そちらで記載するとともに、題目も「6大学と11高校」とちゃんとした記述にした方が良いのではないかと。	高等教育機関の立地が充実しているという視点から、「⑥学術研究機関などの資源が充実したまち」を代表する魅力に位置づけています。また、見出しについては「特色ある「6大学と11高校」が集積」に修正します。
79	27	茨木からイノベーションを！「彩都ライフサイエンスパーク」	茨木市域エリアの「市域」と「エリア」の意味が重複しているように見える。	「茨木市エリア」に修正します。
80	27	茨木からイノベーションを！「彩都ライフサイエンスパーク」	⑥学術研究機関などの資源が充実したまちとして、「茨木からイノベーションを！「彩都ライフサイエンスパーク」」が記載されていますが、その実態を直視すると、およそ先端医療などを研究する一大集積地に程遠いものであり、抹消されるのが妥当です。	彩都は、国の国際戦略総合特区に位置づけられ、また、府の大阪バイオ戦略においてもライフサイエンス関連企業等の二大集積拠点のひとつと位置づけられています。本市としても産業振興の重要な資源であると考えており、大阪バイオ戦略についての記述などを追加します。
81	27	一人も見捨てへん「教育」	「学力高位層を増やすだけではなく、学力低位層を減らすことにも注力し、」では、学力高位層を増やすことに重きが置かれる印象になるので、「正答率を高めるだけではなく、学力高位層を増やし、学力低位層を減らすことにも注力し」の方がよいのではないかと。	「正答率を高めるだけではなく、学力高位層を増やし、学力低位層を減らすことにも注力し」に修正します。
82	27	一人も見捨てへん「教育」	「各学校にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置」では、各学校にSC・SSWが毎日配置されているようにとらえられる。そうでないなら、「各学校」は不要ではないかと。	「各学校に」を削除します。
83	27	一人も見捨てへん「教育」	「市内公立小・中学校では、平成19年からの8年間、学力高位層が増加傾向で、逆に低位層は減少傾向にある。」と簡潔にまとめた方がよい。	「市内公立小・中学校では、平成19年からの8年間、学力高位層が増加傾向で、逆に低位層は減少傾向にある。」に修正します。
84	27	一人も見捨てへん「教育」	⑦教育・子育て環境が充実したまちとして、「一人も見捨てへん「教育」」が記載されていますが、教育委員会と学校が一丸となつての取組みに加え、学校外の地域環境も充実が求められ、まして一人も見捨てへんともなれば、引きこもりや不登校を視野に積極的記述が望まれます。なお、末尾の“一人ひとりの子どもに応じた支援を行っています。”は、“子どもたち一人ひとりの個性を重んじた支援を進めています。”が妥当です。	本市では、「知・徳・体」の調和のとれた子どもの育成をめざすとともに、学力の下支えをするための人的支援を行っています。脚注に「スクールカウンセラー」、「スクールソーシャルワーカー」の説明を加えることにより、福祉面にも力を入れていることを強調します。また、子どもの個性だけでなく、子どもを取り巻く環境に対しても支援を行っているため、原案のとおりとします。 * スクールカウンセラー いじめ・不登校等に関する相談体制の充実を図ることを目的に、各学校に配置された臨床心理士などの専門的な知識、技能を有するカウンセラー。児童・生徒の心のケアや保護者、教職員に対するアドバイスを行う。 * スクールソーシャルワーカー 課題を有する家庭に対して福祉的な支援を行う社会福祉士。不登校傾向や家庭生活に不安があるなど、学校だけでは解決が困難な課題を抱える児童生徒やその家庭に対して関係機関と連携しながら支援を行う。
85	29	市民参画で新たな魅力づくり「市制施行70周年」に向けてほか	このページだけ年号と西暦が併記されているが、他との表現をあわせなくてよいか。	「市制施行70周年」の部分については「70年」という年数を分かりやすくするため、また、「世界的なスポーツイベント」については、ワールドワイドな大会のため、元号と西暦を併記する原案のままとします。
86	29	市民参画で新たな魅力づくり「市制施行70周年」に向けてほか	「市制施行70周年」と国内開催の世界的スポーツイベントが言及されていますが、これらがシティプロモーションの契機になる動きなのでしょう。日々の積み重ねであるシティプロモーションにとって、「市制施行70周年」は一つの催しに過ぎず、世界的なスポーツイベントも、周辺自治体で企画されているような具体的な受入れ施設がなくして、まちの魅力づくりにつながることにならないと考えます。なお、「市民参画/市民参画型」とありますが、今更の事柄であり、この点に関しては、「市制施行70周年」に拘泥せず、「情報共創型シティプロモーション」が求められ、3. 基本方向での言及が望まれます。	市制施行70周年は、市民が「茨木市」を再認識する絶好の機会であり、市民参画でシティプロモーションに取り組む大きな契機であると考えています。また、世界的なスポーツイベントにつきましては、市内に立地する大学クラブの活躍もめざましく、大学との連携を図りながらシティプロモーションに取り組む重要な機会であると考えています。
87	31	6-3. 様々なライフスタイルを選択できるまち	様々なライフスタイルを選択できるまちと、総合計画の重点プランとの結び付きが今ひとつわかりにくい。	重点プランに位置づけられた施策を推進することによって、将来的にも、これまでにない新たなライフスタイルを生み出す素地ができることを示すために記載しており、原案のままとします。
88	32～33	<参考>	目次に「参考資料：用語説明」として記載するとともに、以下の用語に関する修正や追記が望まれます。 パブリシティについて、「PR」は、せめて「ピー・アール」に修正。 コンテンツについては、プロモーターの説明と同様、「内容や中身で、目次を意味することもあるが、ここでは情報内容のこと。」に修正してはどうか。	用語説明は、各ページの脚注で記載します。 PRは「PR(ピー・アール)」とカッコ書きで表記します。 コンテンツについては、ご指摘の内容と同じ意味のため、原案のままとします。
89	32～33	<参考>	「ふるさと寄附金(ふるさと納税)」、「ふるさと納税(寄附金)」、「ふるさと納税(寄附金)」などを追記してはどうか。	「ふるさと寄附金」については、「ふるさと納税(寄附金)制度」と修正し、脚注に追記します。その他用語については、本文中に記載されていないため、追記しません。
90	33	<参考>	<参考>用語解説 最後にまとめてくれているのは親切かもしれないが、注○の説明は、その部分を読んでいるときに確認したいので、そのページの下の部分に入れたほうが良いのではないかと。	該当部分を読んでいる際に確認できるよう、最初に文言が出てきたページの下に入れるよう修正します。